

リヴァプールのスーパーラムバナナ

リヴァプールで最も有名な彫刻の一つが日本人アーティストによって作られたことを知っていましたか？

「スーパーラムバナナ」は、1998年に日本人アーティストの太郎千恵蔵によってデザインされました。この彫刻は、子羊とバナナを合わせたような姿をしており、高さは5メートルを超えます。千恵蔵は、リヴァプールの港湾で羊とバナナが主要な貨物であったことから、リヴァプールの歴史と産業に配慮してデザインしました。彫刻は通常は黄色ですが、特別なイベントのために異なる色に塗られることもあります。

2008年に、リヴァプールは「欧州文化首都」に指定されました。その記念として、124体の小さいスーパーラムバナナがリヴァプール市内各地に展示されました。それぞれ異なるデザインで塗装され、面白い名前が付けられ、地元団体による後援を受けました。当時私は小学生で、それらを探すために色々な場所を回って楽しんだのを覚えています。ビートルズのファンなら、写真に写っている「スーパー・サージェント・ペパーズ・イエロー・サブマリン・バナナ」という作品を気に入るかもしれません。

小さいものはわずかしかなかったかもしれませんが、大きいスーパーラムバナナは今もリヴァプールの中心部にあります。街の象徴的なシンボルとなり、イギリスと日本をつなぐユニークな絆にもなっています。

Liverpool's Superlambanana

Did you know that one of Liverpool's most famous sculptures was created by a Japanese artist?

Superlambanana was designed in 1998 by Taro Chiezo. The sculpture looks like a mix between a lamb and a banana and is over 5 metres tall. Chiezo designed it with Liverpool's history and industry in mind, since sheep and bananas were common cargo at the city's docks. The sculpture is usually yellow, but sometimes it is painted differently for special events.

In 2008, Liverpool was designated a European Capital of Culture. To celebrate, 124 smaller Superlambananas were displayed around the wider Liverpool area. Each one was painted with different designs, given a funny name, and sponsored by a local organisation. I was in primary school at the time, and I remember having fun going to different places to find them. If you're a fan of the Beatles, you might appreciate the one called "Super Sgt Pepper Yellow Submarine Banana", which you can see in the picture.

Even though only a few of the small ones remain, the big Superlambanana is still in central Liverpool. It has become an iconic symbol of the city and a unique link between the UK and Japan.



▲大きいスーパーラムバナナ



▲ビートルズのスーパーラムバナナ

北海道赤井川村から上毛町へ農業研修！

北海道赤井川村との自治体間連携協力に関する基本協定に基づいた人事交流の一環として赤井川村から森心音さん(19歳)が農業研修に訪れました。

10月6日から約1週間(株)ユースで稲刈りを中心に農作業の研修を行いました。北海道にはない雑草対策などに苦労しながらも農業を通じて交流を行いました。



こうげのみどき
上毛町土記

Vol
235

上毛中学校の門柱

今回は、唐原小学校の門柱に続き、上毛中学校の門柱を紹介します。

建っている場所は、上毛中学校の正門ではなく裏門にあります。やはり御影石を使った立派なもので、形状も直方体です。二本の石柱は約七メートルの距離を隔て建っており、一辺がそれぞれ四十六センチ、高さが百七十二センチあります。校庭に向かって右側の石柱の足元には、四角錐状の石板があり、元は上につけていたものと思われ、『大平村誌』や『新吉富村誌』に使われている写真で確認することが出来ます。

向かって右側の石柱には「東部中学校」の文字がありますが、これは後から埋め込まれたもののようです。不思議なことに校庭側に向かって文字があります。「東部中学校」の名称は昭和二十二年から昭和四十六年までの約二十一年間に使用されたもので、その後友枝中学校との統合で築上東中学校となり、現在の上毛中学校へと続いています。

また、石柱の表側には、向かって右の石柱に「昭和廿五年三月」、左の石柱に「第三回卒業生」の文字がそれぞれ直接彫り込まれています。彫り込まれた年代から、こちらの石柱も建てられてから七十年以上もたつことが分かります。門柱は、通常は校外へ向かって名称が分かるように建てられますが、校内側に名称が向いている理由が分かりません。『大平村誌』や『新吉富村誌』にも



▲東部中学校の門柱



▲東部中学校の標識

その辺のいきさつについての記述はみられません。どなたか反対向きになっている理由を御存じの方はご教授いただけないでしょうか。

教務課文化財保護係 矢野 和昭

かぶのカニカマあん

アンケートにご協力をお願いします。



上毛町食生活改善推進協議会

〈材料〉(2~3人分)

- かぶ 中3個
- 水 2カップ
- 鶏ガラスープの素 (顆粒) 小さじ2
- カニカマ 5本
- しょうが(チューブ) 小さじ1/2
- ※片栗粉 小さじ2
- ※水 小さじ2

〈作り方〉

- ①かぶの葉は、塩(分量外)を加えた熱湯でさっとゆで、刻んでおく。
 - ②かぶは皮をむき、くし形に4等分に切る。カニカマは長さを半分に切り、ほぐしておく。
 - ③鍋に水と鶏ガラスープの素を入れて火にかけ、かぶも入れて柔らかくなるまで煮る(沸騰してから5~8分くらい)。
 - ④かぶが柔らかくなったら、ほぐしたカニカマとしょうがを加えて味をみる。味が足りなければ塩少々(分量外)を加える。
 - ⑤※をまぜて水溶き片栗粉を作り、鍋に回し入れ、お玉で優しくまぜてとろみをつける。
- ❶のかぶの葉を加えて完成。

問 子ども未来課 町民健康係 ☎ 72-3127(内線223)

健康
レシピ



一言メモ



かぶの旬は年に2回あり、3月~5月ごろの「春もの」と10月~12月ごろの「秋もの」があります。また、かぶの実には胃腸に優しい成分も含まれており、年末年始でつつい食べ過ぎてしまう時期にピッタリな食材です。根だけではなく、葉にもβ-カロテンなどの栄養が含まれているため、すべて活用しましょう。